

第2回 平塚市総合計画審議会

会議録

日時 令和5年9月19日(火) 18時30分～20時30分

場所 平塚市役所本館3階 302会議室

出席者 20名

大熊委員(会長)、湯川委員(副会長)、中村千里委員、齊藤委員、秋山委員、田中委員、木川委員、金田委員、志村委員、大場委員、白岩委員、中村俊太委員、森委員、米村委員、片倉委員、出村委員、上野委員、尾上委員、近藤委員、篠田委員

市出席者 2名

事務局 8名

傍聴者 1名

開会

1 挨拶

2 議題

(1)(仮称)次期平塚市総合計画(1次素案たたき台)

【事務局】(事務局より資料説明)

【会長】 審議を進めるに当たり、今後の予定を踏まえたほうが良いと考える。今後の予定について先に説明をして欲しい。

【事務局】 本日の議論を踏まえ、令和5年10月17日からパブリックコメント手続に進む予定である。パブリックコメント手続を実施するに当たり、9月26日頃までに資料を整える必要がある。本日いただいた意見について、内容によってはパブリックコメント手続までに全てを反映することは難しい可能性がある。ただ、反映できなかった意見については、パブリックコメント手続の期間中にしっかり対応していく。パブリックコメント手続を1か月ほど実施した後、12月中旬頃に第3回の審議会開催を予定している。次回の審議会では、今回と同様に計画書本体に対して議論をしてもらう機会となる。

1月中旬頃に開催を予定している第4回の審議会では、本審議会の目的である、次期総合計画に対する答申(案)に対して議論をもらう機会となる。よって、計画書本体については、今回と第3回の審議会において、議論をってもらうことになる。

【会長】 事務局からの今後の予定に対する説明を踏まえ、各委員から一人ずつ意見をもらいたい。時間に限りがあるので、1人当たり3分程度でお願いする。

【委員】 DX、GXは日常的な言葉として浸透してきているが、DXに関して、デジタル弱者と言われている方々をしっかりと救済するような方法を総合計画に盛り込んで欲

しい。労働団体の中では、例えば、ウェブ会議をすることにも抵抗がある人が多くいる。

【委員】 現在、子ども会育成会は徐々に休会に入っていて、しかも増加傾向にある。老人会も運営に支障が出てきている。地域は日々、息つく暇はない状態であるが、今回、前に進めていく総合計画を仕上げ、自治会としても盛り上げていきたい。

【委員】 ひと昔前の漁業とは異なり、獲れる魚が少なくなってきているので、しっかりと販売していくことが重要であり、より多くの市民に魚を届けていきたい。海辺の散歩道から続く平塚新港で、毎月直売会を開催し、多くの方に魚を購入してもらっている。将来的には常設の販売所ができれば良い。

また、低未利用魚の加工も重要であると感じており、水産加工品として市民が口にしやすいよう加工できるようになることで、地産地消にもつながる。

不安定な漁獲量とも向き合いながら、魚市場をはじめとして様々な事業者と連携していきたい。その魚市場の施設も老朽化で建て替えの話も出ていることから、市、魚市場、漁協が一体となり、販売施設を兼ねた新たな施設など、地域の発展につながる開発に期待している。

【委員】 デジタル弱者といった話があったように、DX・GXの視点は重要であると思う。また、重点戦略3と分野別施策2 - 1にあるデジタル化・脱炭素化の取組がほぼ同じになっており、重点戦略と分野別施策との違いを明確にすると良い。

デジタル化の取組について、横文字使っている部分が多いので、注意書き等、分かりやすい表現があると良い。

分野別施策2 - 1の「デジタル技術の活用による障がい者の情報取得・意思疎通の支援」について、一連の情報取得と意思疎通と理解しているが、障がい者(そのもの)の情報を取ると誤解されない記載をした方が良い。

【委員】 次期総合計画の中で、子ども・子育て関連が、本当に大きい課題として捉えられている。現状、少子化というものの、保育園のニーズは多くなっている。その中で、平塚市は様々な施策を講じて、色々な方法と一緒に取り組んでいるが、保育士の確保、保育の質の確保が課題となっている。

現場でいろいろとICT化に取り組んでいるが、保育を行う中で、対子ども、対保護者で考えたとき、ICTで補える部分と補えない部分がある。それらの課題をしっかりと捉え、次期総合計画の策定を進めていくべきである。

【委員】 外国籍市民が市内にかなり多く住んでいて、働いており、この傾向は今後も続くと思われる。外国籍市民への働きかけだけでなく、住民に対し、多文化を理解し、共生しながら、まちづくりに取り組むような働きかけがあっても良い。基本計画にある人権の分野にある記載でも感じられなくもないが、市民の多文化理解と共生についてももう少し示してもらった方が分かりやすい。

【委員】 市の将来の在り方を見据えた記載がされており、今までの計画に基づいた政策だけではなく、新しくなる社会への対応策を講じる可能性が感じられた。

まちづくりの基本姿勢に記載されているように、市民が積極的に市政に関わる姿勢が重要であり、市民の声が反映させられるような記載がもっとあると良い。

市民ワークショップの中で、多くの市民の方々から、平塚市は自然環境が素晴らしいといった意見があったので、環境行政に対するもう少し踏み込んだ書き込みが欲しい。また、魅力の発信もしてもらいたい。

【委員】 まず、p.19のバックキャストのイメージ図について、目指す姿と現状の差を課題と捉えて、それに関して取組を行っていくということが、計画全体を通して、一貫して書かれており、非常に分かりやすいと感じた。

次に、p.49の産後パパ育休の取得支援に関して、育児休暇を取得した経験から、職場には多少迷惑がかかったかもしれないが、子どもとの時間も取れて非常に有意義な時間であったことから、産後パパ育休の充実は重要であると考え。特に、産後パパ育休の取得支援となったときに、市内にある企業を支援するという形もあるかもしれないが、そうすると住民を十分に取り込めないかもしれない。平塚市に住む方を中心に、企業ベースというより市民ベースで、支援をするような形だと良い。

次に、スポーツに関して、高齢社会、人口減少社会への対応というところで、健康に資する体力づくりも必要である。社会人になると、スポーツ、体を動かす機会が減る。何かきっかけがあれば、スポーツをやると思う。特にスポーツだと、子どもや高齢者に目が行きがちだが、働いている世代含め全世代でスポーツを始めるきっかけ、再開するきっかけを支援できると良い。

次に、p.83の次世代モビリティの推進や自動運転バスの実証実験の実施などについて、人口減少社会への対応という長期的視点で見たときに、交通の整備は、非常に重要である。最近でも全国的にタクシーの運転手が足りないといった話もあるが、仮に人員がいなくても、安全に移動できるような環境づくりが大事になってくる。秦野市で、次世代型の都市型ロープウェイの研究も進められているので、例えば、平塚市内の北の核の地域と南の核の地域をつなぐ交通手段として、色々な選択肢、取組が考えられる。

最後に、内容が充実することによって、より多くの市民の方に見てもらうことが重要である。表紙のデザイン、例えば、湘南平からの景色など、表紙を見て中身に興味を持ってもらえるようなものになると良い。

【委員】 デジタル化の取組について、機器の導入についての記載があったが、ICTに関して、若い方を含めて年代関係なく苦手意識を持っている方がいると思うので、ITが苦手な人の視点も施策に盛り込めると良い。

また、ICTを導入して終わりになっている企業が多々見受けられる。ICTは、分野関係なく、我々の生活や仕事に対して、プラスの影響を与えることから、導入して終わりではなくて、導入後の支援も含められると良い。

p.79の「分野別施策4 - 日常生活の安心・安全を高める」に関して、私自身8年ほど市内に住んでいるが、身の危機を感じたことはほとんどないので不安はないが、他市に比べて昔からの悪いイメージがあるように思う。せっかく昔より良いイメージがあるので、市内に向けた取組だけではなく、良いイメージを持ってもらえるよう市外へも発信し、平塚市をアピールできると良い。

【委員】 内容はまとまっていると思うが、伊勢原市、厚木市、秦野市にもそのまま当てはまるように思え、もっと平塚らしさを出しても良いと感じた。

また、スタジアムや神奈川大学の跡地など課題になっているものについては、8年後にこの計画を見たときに、ちょうど8年前にそういう課題があって、それを検討した結果、現在の状況になったということが分かるようにしておく必要がある。スタジアムはあったほうが良いが、行政の立場では、様々な課題があり、その課題をしっかりと関係者間で共有し、前向きに進めてもらいたい。

また、スポーツはトップアスリートだけの話ではない。例えば、総合公園や市内の公園の充実を図ることで、障がいスポーツや健康寿命を延ばす取組の推進、子どもや高齢者だけでなく全世代がスポーツを楽しめる場を作ることが必要である。場所がないのであれば、ナイター（夜間利用・開催）を充実させるなど、新たなことを展開して多くの方が喜べる場所になると良い。

また、中学校の部活動の在り方について、子どもたちの生きがい、やりがい、それに従事する先生方の支援も考えながら、スポーツを展開してもらいたい。

平塚の特徴と言えば海であり、例えば、埼玉県や群馬県の人達が、湘南の海に来るときに、平塚の海に来てもらえるような魅力的な海である必要がある。漁業などの一次産業はもちろん大事で、六次産業で様々な工夫をしていると思うが、もう少し相模湾をうまく活用すると良い。例えば、海から富士山や平塚のまちを観る海上タクシーなどの取組を応援してあげると良い。高麗山からの景色を観ることができただけでなく、海からの景色を観ることができて良い。このような取組を平塚市が先頭を切って、茅ヶ崎市、藤沢市や神奈川県と手を組んで行うことで、海の魅力が更に深まっていくと考える。

【委員】 重点戦略、分野別施策のそれぞれ最初に子どもに関することが書かれていて良いが、どうしても小学校入学前までの取組となっているように思える。実際、小学校期から中学校期と長い期間があるので、小学校入学前までの取組で止まるのではなく、その先も取り組んでもらいたい。学校現場の取組についても記載されているが、子育ては学校だけで行っているわけではないので、地域としても行ってもらいたいと思っている。

体験格差、経験格差という言葉があり、お金を持っていて習い事などができている家庭がある一方で、貧困状態にある家庭では、塾にも行けない、習い事もできないといった格差が生まれているという話があるので、平塚市として子育てに取り組んでいくということが分かるような指標などを出してもらえると良い。

KPIについて、もう少し踏み込んでもらいたい。例えば、認知症サポーターの養成者数や生きがい事業団の会員数など、もちろん大切なこととは思うが、単に数が増えたから直接的に効果が出てくるわけではないと思うので、もう少し深く考えてほしい。

DXについて、何のためにDXを進めるのか忘れないでもらいたい。p.81に「情報提供や啓発活動にデジタルサイネージの活用」とあるが、デジタルサイネージの価格は安いものではなく、デジタル化の取組をしなければならないから記載しているだけに思ってしまう。誰のために、何のためにDXを進めるのかということ考えた中で、様々な取組、デジタル化の取組を進めてもらいたい。

平塚と言えば、農業もあれば、産業もある。一次産業の担い手が不足していると感じているので、一次産業の従事者を増やすという取組を、もう少し大きく、強く打ち出して欲しい。

【委員】 人口減少社会と高齢化ということが叫ばれていて、それに対して、今後のまちづくりについては、官民連携が叫ばれている。全体像の中で、DXとGXは十分承知しているが、地域の人、企業や商工団体等含めた官民連携について、計画の全体像の中で打ち出していくべき。

他の委員からも平塚らしさといった意見があった。デジタル弱者への対応を行うと

ともに、市役所に来なくても良い状況を作っていくと聞いている。市内には、地区公民館 25 館など、各地区に大きな公共施設がある。社会教育施設という視点だけではなく、異なる視点が必要である。例えば、住民票のコンビニ交付が増えてはいるが、高齢者の方が大神から市役所に未だに住民票を取りに来るなど、デジタル弱者の中には、コンビニですら住民票を取ることができない方もいる。平塚市の特徴である地区公民館の活用を、平塚らしさの中で具体的に考えていくと良い。町内福祉村に関しては、地元の方々が立ち上げていくということが平塚市の基本姿勢であるが、公民館には必ず職員が配置されている。まちづくり、地域の拠点といった考え方で、地区公民館における社会教育以外の活用方法をしっかりと記載していくべき。

【委員】 DXに関して、便利さとそれに伴う経費について、市民に丁寧に説明をして、協力、参画してもらうべきである。

また、市内に地区公民館が 25 館あることから、地区公民館でできる手続なら、積極的に地区公民館を案内して、わざわざ遠いところから市役所まで来なくても良いようにしてあげると良い。

子育て施策に関して、子育て支援が薄いので、もっと手厚く対応すべきである。総合計画の中で、他自治体にはないような施策の展開を打ち出せると良い。転入超過となっている要因をしっかりと把握し、子育て支援を進めてもらいたい。

【委員】 国が 2030 年を見据えて、2024 年度から 3 年間集中して異次元の子育て政策を進めることから、その内容と連動した取組にも触れてもらいたい。

子育て施策として、重点戦略 1 はすごく充実している。ただ、その中の K P I の一つとして、出生率を入れてしっかりと評価していくべきである。

p.32 の「重点戦略 3 - (2) 子育てにゆとりが持てる」の「主な取組」にある、産後パパ育休の支援などについて、夫婦そろって子育てに従事できるような環境を作ることはよく分かるが、ひとり親世帯に対しても、主な取組の一つとして取り上げてもらいたい。

p.38 の「重点戦略 3 高齢者の想いに寄り添う環境づくり」のデジタル化・脱炭素化の取組で、スマート介護などちょっと文言が難しいところであり、もう少し丁寧な書き方をした方が良い。

【委員】 K P I について、世の中の移り変わりが早いので、K P I の項目がそぐわないケースが出てくる。よって、4 年後に K P I を変えることも必要になるかもしれない。

p.13 の産業に関して、出産・育児を機に離職する女性を多く存在しているとあるが、そこまでしっかりと現状認識しているのであれば、p.97 の「分野別施策 5 - 雇用の確保、多様な働き方を促進する」に、もっと具体的な対策を書き込んだ方が良い。

p.15 の行財政運営で、「歳入確保や歳出の抑制など、更なる行財政改革が求められます。」とあることに関連して一点。他市町の長と会う機会があるが、その中で、先人たちが必死に努力をして、企業誘致してくれたおかげで、雇用が生まれ、税収が多いという話を聞く。平塚でも、横浜ゴムの本社が来たことはとても良いことであるので、企業立地をもっと強調すると良い。p.93 の「分野別施策 5 - 工業を振興する」に、「企業立地支援件数【累計】」という K P I があるが、平塚は工業のまちでもあり、将来の税収にも関係することから、もっと強調すべきである。

私の所属する組織では DX が思うように進んでいない。我々の業務は、フェイストゥフェイスが重要であり、お客様との温もりを大事にしていく必要がある。DX に

よって業務が効率化することで、本来、その業務を行っていた人員を、人と人とのふれあいや、相談業務に充てることができる。DXを進めるべき理由や、DXを進めることによって期待できる効果を共有していくと良い。

障がい者について、まだ親の世話になっている時は良いが、大人になったら就労しなければならず、この計画にも就労に関して記載がある。以前、ある社会福祉法人の理事長から、平塚は盲学校、聾学校があつて、障がい者の方々にすごく温かいまちだということを知った。また、障がい者雇用を進めている経営者からも、障がいの方は、一般の方と違う行動することがあるが、それを許容するまちでないといけないということを知った。平塚は障がいを許容できるまちということアピールすると良い。

官民連携に関して、他市の話であるが、厚木市が中心になって、県央やまなみ地域における広域連携の強化に関する協定を、近隣市町村と締結している。この協定は市町村同士で様々なことを実施していこうというものである。平塚市は、歴史があり、様々なものが揃っている人口25万人の都市であるので、平塚市だけで様々なことができるかもしれないが、これからの時代は、他市と連携して、市民のために取り組んでいくという要素が入っていると良い。

【委員】 p.42の「安心・安全で快適なまちづくり」にある、デジタル化・脱炭素化の取組や数値目標について、どのような議論があつて数値目標に繋がっていったのか、今後詰めていく際に教えて欲しい。

KPIや数値目標は進行管理の中で非常に効いてくるものである。具体的にどのような取組で数値目標を設定したのかが見えるとより良い。例えば、p.42にある「道路や橋りょうの点検におけるAI等の新技術の活用」は、DXであるが、これに数値目標に入れるとしたらどんな可能性があるのかなど、内容を掘り下げていく段階で、色々と議論ができると良い。p.43の「重点戦略4-(1)防災・減災対策を強化する」のKPIや、p.74からp.75の「災害に強いまちづくりを推進する」の成果指標について、どのような議論があつて、この指標になっていったのか明らかになれば分かりやすい。同様に、p.82の「交通の利便性・快適性を高める」についても、平塚らしさを表す成果指標を設定できれば、より具体性があり、分かりやすい。

【委員】 コミュニティ維持の関係で一点。人口減少社会や少子高齢化の中で、コミュニティの位置づけは重要になってくる。p.68の「分野別施策3- コミュニティ活動を促進する」で、「現状」を見ると、高齢化についてしか見えないが、例えば、人間関係の希薄化など、基礎自治体として書けることがあるはず。

人口減少で少子化対策に目が行きがちだが、人口構造を考えると、高齢者への対応・高齢者施策も重要である。

安心・安全に関して、基本的には地震や風水害などに対応する防災・減災の視点はあつたが、もう少し広い意味で、危機管理の観点から、国民保護の視点もあると良い。ただ、国民保護については、国が決めて県・市におりてくるものであるため、基礎自治体での書き込みは難しいかもしれない。

p.33の「1-(3)子どもが希望をもって成長する」に、「勉学に意欲的な高等学校等へ進学する生徒への経済的支援」とあつたが、「勉学に意欲的な生徒が高等学校に行くための経済的支援」のほうが分かりやすい。

【委員】 基本計画はどの自治体でも同じような題目になると思われるので、平塚の特徴を出してもらえると良い。

少子高齢化といっても、中身は様々であり、子どもが少なくても、高齢化がいくら進んでも、住みやすいまちという視点から考えると、健康寿命の延伸が重要である。80、90歳で、自分で食事がとれない人が多くいることよりも、70、80歳で元気な人がたくさんいたほうが望ましい。年齢の高さよりも、その健康状態が重要である。

少子化に関して、子どもを産み育てやすい環境を良くしようということは、どの自治体でも同じだと思う。保育所の整備等しているが、病児保育ができる施設が非常に少ない。現状としては、私立の施設にお願いをして病児保育をしてもらっているが、なかなか手が拳がらない。平塚で公的な病児保育ができれば、他の市町村にはないものとなって良い。

「少子化の進展」及び「高齢化の進展」という表現について、行政用語で良く使われているので仕方がないかもしれないが、「進展」というのはもともと良い方向に向かって走るという意味である。その他にも字句で気になることについては、別途事務局に伝えることにしたい。

どの分野にも言えることだが、新型コロナウイルス感染症などが蔓延しているにも関わらず、感染症に対する取組についての記載がないので、どこかに盛り込めると良い。

p.32の「3 - (2)子育てにゆとりが持てる」にある「基本的な方向性」に「男性の家事・育児」とわざわざ「男性」と入れているが、「女性」も同様である。男性・女性と区別して良いところと悪いところがあるので整理したほうが良い。

【副会長】 p.19のバックキャストिंगについて、知っている人は知っていると思うが、より分かりやすい表現が良い。目指す姿と現状との差分が課題であるということは分かるが、辛辣な言い方をすると、平塚市がどこに向かっていくのかということの記載がないように思える。p.16の人口減少社会への対応や、p.17のまちづくりの基本姿勢にあることを実現したいということは何となくは読み取れる。ただ、どの自治体でも同じような題目となる中で、平塚らしさはどこにあるのかと考えたときに、平塚の現状分析をしているので、基本計画にある各重点戦略や分野別施策にもっと出てきて良いと考える。

重点戦略について、数値目標、KPIをどのように扱っていくのか気になった。どのような数値目標、KPIにするのか考えるのはなかなか難しい。以前、別の自治体で総合計画の評価委員をしていたことがあるが、何でこの指標を設定して評価しているのか、4年経過していると良く分からないということがあった。時代が変わってきているので、数字だけを見て良し悪しを評価することに疑問が出た。指標の設定と同時に定性的な評価も意識し、評価に繋げていけると良い。

産後パパ育休について、先ず隗より始めよということで、市役所の職員がどのくらい育休を取得したかといった指標を入れていくと面白い。

p.64からの「分野別施策3 - 平和意識の普及啓発や人権尊重を推進する」について、ジェンダーに終始しているように見え、人権はもっと広い意味があると思った。

p.66からの「分野別施策3 - 市民交流・多文化共生を推進する」に関連して、多様性の尊重は記載してあるが、障がい者や外国人など、市民の主体はいわゆる日本の国籍を持っている日本人の男性女性だけではないので、もう少し意識を広げていく必要がある。

p.73の「誰もが楽しめるスポーツを充実する」のデジタル化・脱炭素化の取組に、突如eスポーツが出てくることに違和感があった。確かに関心があり、産業分野で進みそうな様子があるが、無理に入れなくても良い。DX・GXは、取り組みやすい領域と取り組みにくい領域があると思うので、グループ化はしていく必要はあると思うが、あえて全部横並びに位置付ける必要はない。他市事例などから、市民が平塚に住んで良かったと思えるような取組について、もう少し書き込みを追加できる部分と、無理に記載しなくても良い部分のすみ分けを行いながら、書きまとめると良い。

重点戦略の一番上に「効果」とあり違和感があった。効果というのは、例えば薬を飲んで何かしらの効果が出たといったようなものなので、効果ではなくて、平塚市が目指している理想像やビジョンといった意味だと思う。このような理想像で方向性を決めているといった方が良いと思うので、表現を検討してもらいたい。

【会長】 まず一委員としてコメントさせてもらいたい。計画について、色々な意見があったが、私が改めて感じたのは、計画は一つの役割だけではなく、いくつかの役割を持っているということである。一つは、いろいろな意見がある中で、計画をしっかり立て、事業の進捗を管理しながら進めていくことが重要なことから、進行管理をしていく道具としての役割がある。一方で、行政内外でビジョンを共有する役割が大きい。世の中が変わっていくときに、社会が進んでいく方向性を先取りしているビジョンを示すことによって、行政内部での政策の重点の置き方が少し変わり、様々な部局で共有して、進行を後押しする、あるいは方向転換をするということが起きる。また、公共のための仕事、行政だけやる時代ではないことが明らかになってきている中で、市民との間で、市が目指していくべき姿、市の特徴など色々なことを共有して、進めていくことになる。

今回の1次素案たたき台で、市が目指していくべき姿が分かりにくい。おそらく、良く「ウェルビーイング」と言われることで、p.17の冒頭にある「将来にわたり市民が幸せに暮らすことができるまち」が、平塚市が目指していくものだと思う。市の魅力は何か、また、その魅力を伸ばしていったどのような市にしていきたいのかを計画の中で明確に見せられて、それを行政内部や市民と共有できるともっと良い。

DX、GX、少子化対策を全てまとめて、豊かな暮らしやまちの魅力につながる施策が見えてくると良い。今は個々の分野でDX、GXの取組について記載してあるが、そこからもう一歩進んで、全てをまとめて良いまちにしていくための政策が見えてくると良い。例えば、産業づくりに関して平塚市の特徴を考えると、農業、漁業については、DXにつながる可能性があり、GXには直結するので、地産地消などをもっと前面に出しても良いと考える。あるいは、p.42の「安心・安全で快適なまちづくり」で、DX、GXを使って、住みやすいまちづくりに直結すると考えられる。避難所における再生エネルギー活用について、もう一歩進んで面的な取組を捉え、マイクログリッドなど、もう少し野心的で、平塚に住みたいと思えるようなまちづくりにつながるようなものがあると良い。「DX、GX、少子化×住みよいまちづくり」など特徴的なこととして落とし込めると良い。

一巡したところでどうしても言っておきたいことあれば、コメントをもらえればと思う。

【委員】 文章を分かりやすくするのであれば、可能な範囲で、括弧書きで、例示や説明があ

れば見る人は分かりやすいので、工夫ができると良い。

【会長】 事務局の方からコメントがあればお願いしたい。

【事務局】 多くの貴重な意見に感謝する。いくつかの意見は担当部局とすぐ調整をして反映できるものもある。一方で、調整に時間を要する意見もある。冒頭説明したとおり、パブリックコメント手続に進む段階では、全ての意見を反映できていないかもしれない。ただ、パブリックコメント手続の期間中には、しっかりと意見を反映していくよう、担当部局と調整を進めていく。

【委員】 今回の審議会での意見で、反映できたところとできていないところについて、この審議会での確認ができないまま、パブリックコメント手続を進めるということか。各委員に修正対応の途中経過を出すべきである。

【事務局】 パブリックコメント前に各委員に修正対応の途中経過をお知らせしたい。

【会長】 パブリックコメント手続との関係は、全体のスケジュールの中でやむを得ないということなので、今回の審議会での意見を極力反映した上で1次素案としてパブリックコメント手続を進めていく。

今後の審議会について、次回の審議会において、今回の議論を踏まえて修正した案を事務局から示してもらい、再度各委員から意見をもらう。そして、第4回の審議会において、計画案に対する答申案を審議していくので、各委員におかれては引き続きよろしくお願いしたい。

(2) その他

特になし。

閉会

以 上